An illustration of a young woman with her hair in a bun, wearing a light-colored coat and a dark backpack. She is looking out over a landscape with stylized, colorful trees in shades of blue and orange. The scene is framed by a blue geometric shape.

桜美林から続く
未来を守るために

支援プロジェクト第3弾
2021年度 学業継続奨学金ご報告書

オールオベリン未来ファンドご出資者の皆様へ

この度は、桜美林学園の生徒・学生の未来を支える「オールオベリン未来ファンド」へのご出資を賜り、誠に有難うございます。今般、皆さまからのご厚志に基づき、支援プロジェクト第3弾として、2020年度に引き続き「学業継続奨学金」を支給させて頂きましたので、以下にご報告致します。

支援プロジェクト第3弾『2021年度 学業継続奨学金』概要

【奨学金の目的】 新型コロナウイルス感染症拡大による家計急変を理由として学費延納を申請した学生を経済的に支援し、経済的な理由による学業の断念を防ぐ。

【支給金額】 ・給付型30万円(上限60名)
・貸与型30万円(上限20名)

【提出書類】

1. 課題(下記ご参照)
2. 成績証明
3. 収入証明
4. 意思確認書

※本ファンドの趣旨の一つである「オベリンナーによるオベリンナーのためのファンド」の実現のため、ファンド運営に協力する意思、および将来のファンドへの出資意思を確認。

【課題内容】 下記内容を自由に記述

1. 学業継続の先にある目標について
2. 就学意欲について
3. あなたにとっての学生生活の充実とはどのようなことを指しますか？
4. 社会貢献と生きる力を養うためにどう行動したいですか？

※本支援を受けることで、自分の未来がどう変わっていくかをイメージしてもらうこと。また将来どのように社会と本ファンドに貢献するか考えてもらうことを念頭に課題を作成。

※学生の自由な発想を生かすため、課題の文字数や回答方法はあえて指示せず。

【選考結果】 書類審査、面接を経て、厳正なる審査を行った結果、春学期、秋学期ともに下記のような結果となった。

春学期	給付20名	貸与1名	計21名
秋学期	給付28名	貸与2名	計30名
合計	給付48名	貸与3名	計51名

【 奨学生証授与式を実施 】

「学業継続奨学金」の受給者として自覚を持って学生生活を送ってもらうため、奨学生証授与式を実施。奨学生が感謝の気持ちを忘れずに、未来のために学業に励んでもらうため、ファンド設立の経緯や目的、奨学生に期待する事などを伝えました。



感染対策のため、授与式は町田、新宿、東京ひなたやま、多摩の各キャンパスをオンラインで繋ぎ、遠隔で実施。



太田学務部長より、奨学金の位置づけや奨学生に期待することなどを訓示。



ファンド設立の経緯や目的、出資者の想いなどを伝え、在学中だけでなく、卒業後も感謝の気持ちを忘れない事の大切さを伝えました。



各キャンパスに分かれ、一人一人に奨学生証を授与。



受給学生の感謝の声

「学業継続奨学金」の受給学生に、学校で学びたい事、将来の夢、奨学金に申し込んだ経緯、そして出資者の皆さまに対する感謝の気持ちを聞きました。(学年は受給当時)



高瀬 ひかりさん

芸術文化学群 3年

大学では色々な挑戦をしたかったのですが、桜美林は専修を決めずに映像やデザイン、美学など幅広く学べるので、私にピッタリだと思って選びました。コロナで親子共に収入が減って休学も考えましたが、4年間で卒業した方がトータルの負担は減るので、何とかしたいと思っていました。その時にこの多額の奨学金を得ることが出来て、心から感謝しています。

将来のことも幅広く興味があって、映像制作や舞台演出もしたいし、コロナで留学ができなかったのも、いつかイギリスやアメリカで映像技術を学んだり、北欧でデザインを学んでみたいと思っています。

学びを継続できるようになった希望をつないでくれた寄付者のためにも奨学金を受給して終わりではなく、桜美林のモットーである学而事人を胸に活躍し、学んだことを大学や社会に恩返しできるような人間になりたいです。

ゲイツ ゴック アイニさん

芸術文化学群 3年

大学ではデザインを学びたかったのですが、美大よりも幅広い勉強ができる桜美林を選びました。親に負担はかけたくないので、基本的には自分で学費を払うようにしていましたが、コロナ禍でバイト機会がなくなり、親は失職するなど経済的に厳しい状況になったので、奨学金に申し込みました。

奨学金を受給したことにより、今までよりもちゃんと学びをしたいと思うようになり、最近は特に広告やグラフィックのデザインをしています。最近では、いくつかのデザインコンペで表彰して頂けるようにもなりました。将来はクリエイティブな仕事に関わって、自分が創作したものによって、たくさんの人に影響を与えられる存在になりたいです。

これからも奨学金受給学生の自覚を持って、常に感謝の気持ちを忘れずに、学業を継続したいと思っています。本当にありがとうございました。



高橋 玲美さん

リベラルアーツ学群 2年

高校の時はやりたいことが見つからなかったのですが、桜美林大学ならやりたいことが見つかると思って進学。本当にその通りで、入試の課題図書を読んだのをきっかけに、その図書のテーマだった数学に興味を持つようになり、今では数学教師になりたいと思うようになりました。

でもコロナで経済的に不安定になり、不安で勉強が手につかない日が多々ありました。姉妹で岩手から上京して一人暮らしをしているので、もともと両親の経済的な負担は大きく、コロナで余計に厳しくなりました。退学する事も考えていましたが、奨学金のお陰で精神的にも落ち着き、未来のために頑張ろうと思えるようになりました。

今後は教員になるための勉強はもちろん、機会を見つけて中学校を訪問して勉強を教えるボランティアに参加し、その経験を将来に活かせたらと思っています。



劉雲馨さん

グローバル・コミュニケーション学群 3年

日本の高校生が着ている制服がとてもオシャレに見えて、高校生の頃から日本に対する憧れがありました。そこから日本に興味を湧き、もっと日本の事を勉強したいと思って、中国から桜美林大学に留学しました。

コロナでアルバイトの機会が激減して親に生活費を頼らなければならなくなりましたが、中国の両親も同じように収入が激減し、どうすれば良いか分からない状態で、毎日のストレスがすごかったです。

そんな中この奨学金をいただき、誠に感謝しております。おかげで学業に専念できるようになり、充実した毎日を過ごせるようになりました。このまま大学を無事に卒業して、将来は国際社会に貢献できる人物になりたいと思います。

菊地志帆さん

大学院 1年

大学時代に留学したアメリカで、教員が生徒のメンターとして存在している事に魅力を感じ、自分もそんな教師になりたいと思って教員を目指していました。でもコロナで教育実習に行くタイミングを失い、教員免許も取得できませんでした。その経験が学びへの未練となってもっと勉強したいと思っていた時に大学の恩師に勧められて、大学院に入学したんです。

でもコロナ禍では自分以上に親も厳しそうだったので、なかなか援助して欲しいと言えず。新しいバイトも紹介してもらいましたが、学費支払いのタイミングに間に合わないため、今回の奨学金に応募しました。大学時代の奨学金も返済していたので、この奨学金は本当に助かりました。

大学院に入ってからはますます勉強したい気持ちが強くなり、博士号取得を目指して論文を書いています。博士論文は修士論文の10倍くらい大変ですが、博士号を取って大学教員になり、アメリカ留学時に会った、メンターのような教師になりたいと思っています。



出資者（寄付者）から学生へのエールも頂いております！

中国語で、頑張れを加油と言います。
少額で恐縮ですが、油の一滴になる事を切に願います。

桜美林学園様と、学生の皆様の未来が、より一層素晴らしいものとなることを祈念しております。

勉強したいのに経済的困難に直面して苦境にある桜美林の学生の皆さんのために、この寄付が少しでもお役に立てば嬉しいです。

夢をつかめ! NEVER GIVE UP!
困難に負けず、頑張らしましょう!!

大学時代、何を学んだんだろうと思っていましたが、卒業後に色々わかることができました。
失敗はなく全て経験です。

コロナ禍ですが、学業の継続を諦めずに、がんばってください。

将来を担う若き学生よ。Do Your Best!

赤丸急上昇中の桜美林大学の学生は優秀な人が多いです。沢山勉強して社会に羽ばたいて下さい。

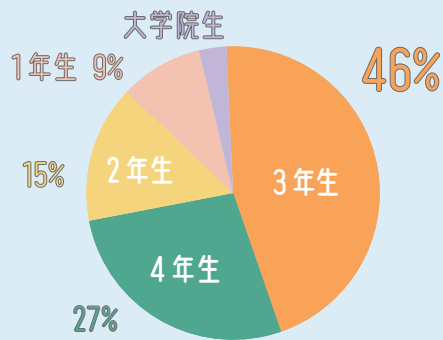
一生かけて自分のライフワークを追求できる目標を持つこと。
「詮方つくれども望みを失わず」是非未来に向かって羽ばたいてください!!

ピンチをチャンスに変え、コロナ禍以前より、尊い物を探して下さい。きっとあるはずです。
早く収束する事を祈りつつ、みんなで頑張らしましょう!

受給学生の現状

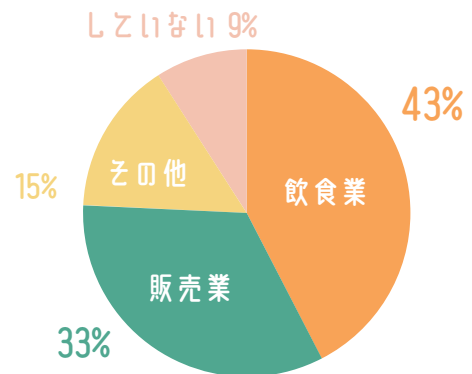
受給学生の経済的状況を把握するため、アンケートを行いました。

学年



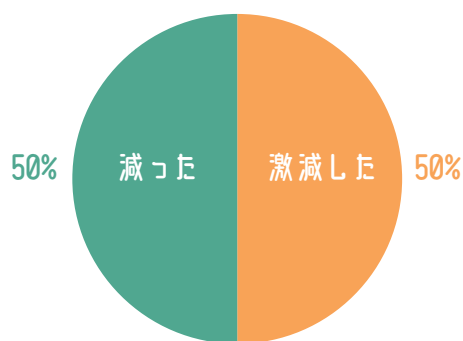
3年生の割合が、2020年度の23%から大幅に増えているのが目立ちます。学生生活が最も充実すると言われる3年目の学生が、最も経済的に困窮している状況が分かります。

Q.アルバイトはしていますか？



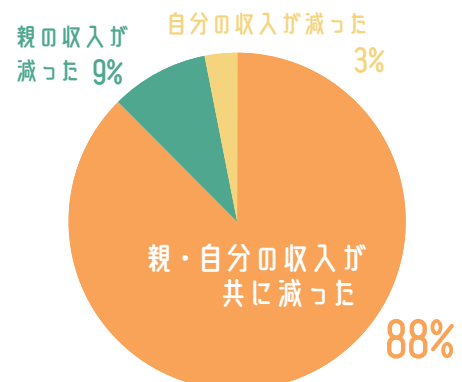
2020年度春学期はコロナにより飲食業のアルバイト割合が6%と非常に少なかったですが、現在は飲食業のアルバイト機会も回復しているようです。

Q.アルバイト機会は減りましたか？



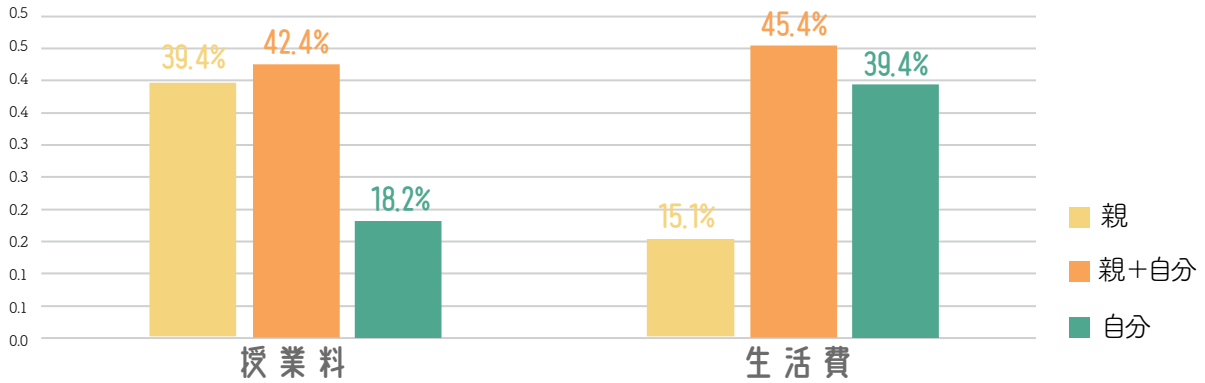
昨年度は3.5%いた「変わらない」が全くなり、全員が「減った」「激減した」と回答しています。コロナ禍は2年経った今も、学生に大きな経済的損失を与えていることが窺えます。

Q.コロナで収入は減りましたか？



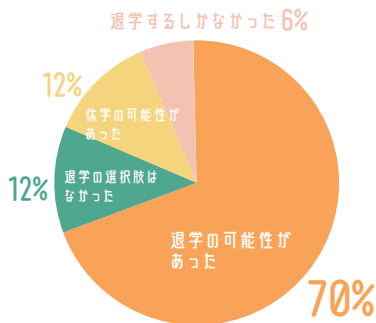
親・自分(学生)共に収入が減った割合が、昨年度の63%から急増。経済的に困窮した学生が、親にも頼れない状況で、そういった学生にとって本奨学金は大きな助けになっています。

Q.授業料や生活費は誰が負担していますか？



授業料を負担している学生が60%以上を占めており、アルバイト機会の喪失が「学びの機会喪失」に繋がりがねない状況は昨年度までと変わりません。生活費については親と共に負担する学生が増え、学生が学業に専念しやすくなったと同時に、親の経済的状況次第で学業継続が困難に陥るリスクが高くなったとも言えます。

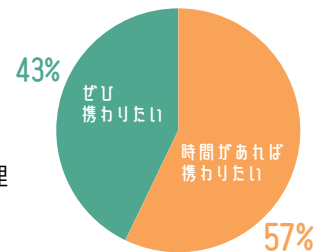
Q.今回、受給できずになかったら？



「退学するしかない」「可能性があった」が昨年度の71.5%から82%へと増加。特に「退学の選択肢はなかった」が昨年度の21.5%から半減しています。コロナ禍が2年続いたことで、学業を諦めやすい心理状況になっているのかも知れません。

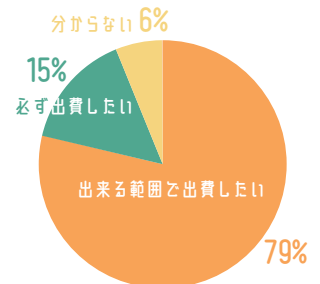
Q.将来このファンドに出費して、学生の未来に貢献したいと思いませんか？

全ての学生が、ファンド運営への参加意思を示しています。奨学金を受給するだけでなく行動で還元していく姿勢からは、ファンドの理念が伝わっていることが窺えます。



Q.在学中にファンドの運営に携わりたいと思いませんか？

将来の出資への意思を示した学生が、昨年度の83%から94%まで増えました。奨学生授与式やファンドの運営を通じた、学生に対する寄付教育の効果と考えています。



感謝の集い SAKURAサミットを実施

本学初めての試みとして、ファンド出資者（寄付者）と奨学金受給学生との交流、および、受給学生が感謝の気持ちを伝えるための場として、SAKURAサミット（感謝の集い）を開催しました。サミットの内容は奨学金受給学生自身が企画し、配信した動画や資料の作成、当日の運営なども担当。本ファンドの理念の一つに、「学生自身が主体的に運営に参加する」がありますが、今回のサミットを通じて、学生達はそれを体現してくれました。



SAKURAサミット企画START!

実施の2か月前から準備を始め、どうすれば参加者が楽しんでくれるか？どうすれば自分たちの感謝の気持ちを伝えられるか？何度も何度も打合せや意見交換、情報交換を重ねました。



会場である帝国ホテルの下見にも帯同し、当日のレイアウトや参加者の導線、機材等の設置場所などを、ホテル担当者、音響業者、映像業者と打ち合わせました。実はホテル担当者も桜美林大学の卒業生で、「先輩」からのサポートもたくさん頂きました。

SAKURAサミット第一部

創造応援AWARD 表彰式

サミット第一部では、2020年6月～2021年3月に行われた、100周年記念作品コンテスト「創造する学生生徒を応援するAWARD」の表彰式も行いました。当日は39の受賞作品を展示しましたが、作品の設置等も全て、学生が担当しました。



当日は約130名の方にご参加頂きました。



参加者の席には「桜美林オリジナルウォーター」が。オールオペリン未来ファンドの交流会にピッタリの演出です。



司会を担当したフリーアナウンサーのお二人も桜美林の卒業生。



39の受賞作品全てを表彰し、全員に賞状とトロフィーを授与。



GOLD賞を受賞した山本彩花さんと審査員の皆さん。山本さんの作品には、多くの方が感嘆の声をあげていました。

オールオベリン未来ファンドのご紹介

表彰式の後には奨学金受給学生を紹介し、一人一人に記念品を贈呈しました。



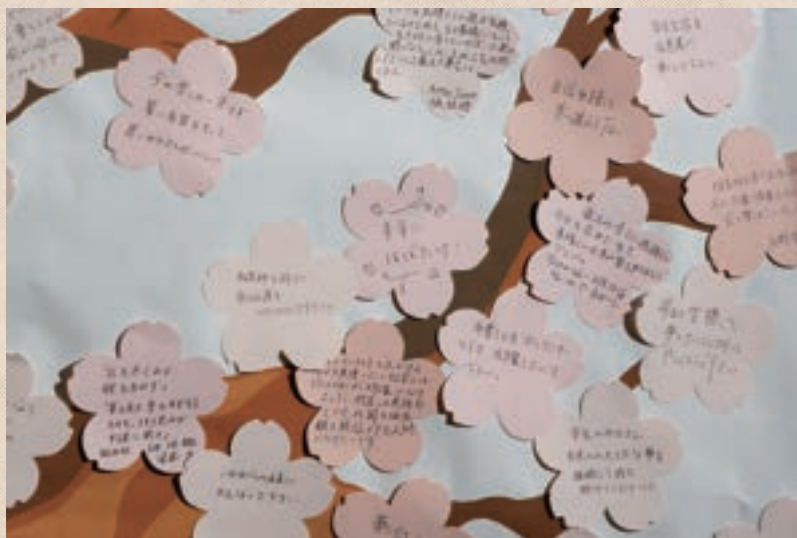
ファンドの設立発起人のお一人である桜美林学園同窓会の山本会長より、学生への温かい激励メッセージと、参加者の皆さまに出資への呼びかけをして頂きました。



奨学金受給学生を代表し、李さんが感謝の気持ちを伝えました。その素晴らしいスピーチに、会場から大きな拍手が起こりました。



参加した受給学生と、同窓会の山本会長、同じく設立発起人である野島隆久様と記念撮影。



当日の参加者全員で、一つの作品を作るという企画も行いました。一人一人が桜美林の未来に込めたメッセージで、どんな桜が咲くでしょうか？

SAKURAサミット第二部

第二部は会場を移しての会食。感染対策として黙食をして頂きました。黙食でも楽しんで頂けるよう、学生が作成した動画をご覧いただきましたが、とても好評でした。



オールオペリン未来ファンドの設立発起人であり、桜美林高校・大学の卒業生でもあるピーシーデポコーポレーションの野島隆久社長より、桜美林学園の未来に向けた講演をして頂きました。



片付け 撤収の全てを終えた後、サミットの運営に携わった学生みんなで記念撮影。学生たちは本当に頑張りました！

サミットの最後には、奨学金受給学生であり、サミット運営に携わったグエンゴックアイニさんから、この日、参加者みんなで作った「満開の桜」をご紹介します。この企画に込めた想いに加え、奨学金への感謝の気持ちを改めてお伝えしました。



総括

学生のアンケートやインタビューからは、現在もコロナによって経済的に大きな影響を受けている学生、ご家庭が多いということが分かります。コロナ禍になって2年が経ちますが、今もコロナ前の日常を取り戻せていない日本社会の状況が垣間見えます。と同時に、本ファンドから支給する事が出来た学業継続奨学金が、学生の未来を支える支援となっていることが分かります。本当に大切なのは大学を卒業する事ではなく、社会に出て「学而事人」のモットーを発揮し、社会に役立つ人材になる事です。そのためにも、2021年度に実施した奨学生証授与式や、SAKURAサミットを企画・運営したことは、今後の彼らの生き方に大きな影響を与えたのではないかと考えております。これもひとえに皆様方のご支援のお陰と、心より感謝申し上げます。未だコロナ禍は収束をせず、学生やご家庭の経済的状況がどうなるかは全く見通せませんが、本ファンドの特徴の一つである「柔軟性」を発揮しながら臨機応変に学生の支援を行う所存です。皆さまにおかれましては、引き続き学生の未来のための支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。


この度は、誠に有難うございました。



学生の未来を支えてくれたことに、心から感謝申し上げます。



学校法人桜美林学園 募金課
〒194-0294 東京都町田市常盤町3758
042(797)9374 bokin@obirin.ac.jp

 桜美林学園